

サポート・ご協力 ありがとうございます

■平成20年度新規・継続会員(敬称略・順不同、2008年10月1日～11月30日)

(正会員)

大久保正司、大須智栄、木村正樹、小島誠、山岡義典、渡辺一馬、(特)市民フォーラム21・NPOセンター

(準会員)

鈴木素雄、横須賀和江、(特)ネットワークオレンジ

お知らせ

世界一簡単な CSR報告書のつくり方

～CSRを武器に企業の活性化へ～

日時:平成21年1月26日(月)
13:30～17:30

場所:仙台市市民活動サポートセンター5F
セミナーホール

講師:川北秀人氏(IIHOE代表)

対象者:企業の方

加藤哲夫の NPO経営相談

開催日:平成21年 1月19日(月)

平成21年 2月24日(火)

平成21年 3月26日(木)

開催時間:13:00～17:00

場所:せんだい・みやぎNPOセンター

相談料:2,500円(1時間単位、会員は500円引き)

※予約制です。まずはお電話を。

連絡先・振込み先など

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター
〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F
TEL:022-264-1281 FAX:022-264-1209
E-mail:minmin@minmin.org HP:http://www.minmin.org/

▼会費・寄付のお振り込みは、こちらへ！

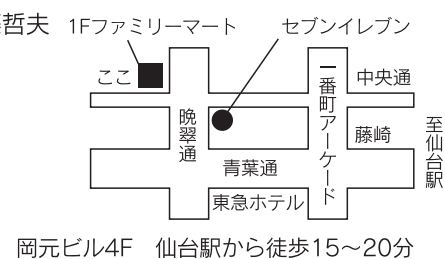
郵便振替:02260-3-16325

仙台銀行 中央通支店 普通 4094031

加入者:特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

発行:(特活)せんだい・みやぎNPOセンター

代表理事 大滝精一・加藤哲夫 1Fファミリーマート セブンイレブン
編集長:谷口恵子
編集班:紅邑晶子
発行日:2009年1月1日
デザイン:氏家朗



| 編 | 集 | 後 | 記 |

せんだい・みやぎNPOセンターのスタッフになって早1年。「よくもったね～」と加藤代表理事のコトバには、ズッコケました。が、NPOについて、右も左もわからない、まさにほかの惑星からやってきた宇宙人のような私がやってこれたのも、みなさまのあたたかなハートにふれたから。2010年もどうぞよろしく願い致します。

(谷口恵子)

長年使ってきた手帳を来年から変えることにした。仕事が増えて書き込み量が多くなったので大きいものにした。もう一つの理由は、一年間を俯瞰してみることでできるスケジュール表が付いていること。正月休みにまず休暇予定を書き込んでしまおう！

(べにむら)

みみん



【題字】谷川俊太郎さん

MY FAVORITE お気に入り小物拝見



新連載「らんち de MATCH」第1回目ゲストの斎藤さんと志水さんのお気に入り小物をチェック！斎藤さんのお気に入りは、人気アイドルグループSMAPのストラップ。見るたびに思わず顔がほころんでしまう宝物だそうです。対する志水さんは携帯電話待ち受けにはなんと宮城県出身のお笑いコンビ「サンドウィッチマン」との3ショットが、すこい……。

■目次

P2～3 らんち de MATCH♪ 第1回

P4～5 せんだい・みやぎNPOセンターの事業から(2008年10月-11月)

P6…… 寄稿「未来のための自治体改革支援とNPO支援」藤岡 喜美子さん
理事リレーコラム「NPOは新しい時代への黒船となれ」針生 英一

P6～7 新スタッフ紹介

P7…… 活動ダイアリー

大町2丁目劇場コラム vol.1『ワンランバン』登場!

P8…… 継続会員、編集後記、お知らせ、連絡先等

「らんち de MATCH」第1回

ゲスト: 齋藤 純子さん(特定非営利活動法人 せんだい杜の子ども劇場 代表理事、特定非営利活動法人 水環境ネット東北 理事)
志水 田鶴子さん(子ども虐待防止ネットワーク・みやぎ(キャプネット・みやぎ)運営委員)

当センターのNPO情報ライブラリーに登録されているNPOのみなさんとランチを一緒にあれこれトークする「らんち de MATCH」。

■世代を超えたコミュニケーションが地域を変える!

齋藤:今の中高生は自分のことをあまり言わないけど、ボランティアとかすると、ほら、認められる部分ってあるじゃない。そうするとね、自信につながっていくというのが職場体験を通して分かる。世代を超えたコミュニケーションがあれば、「今どきの若いもんは…」とか、「おじいちゃん、おばあちゃんったら…」とか、そういうこともなくなる。顔の見える関係になれば、お互いを認め合えるんだよね。やっぱりそういう世代を超えて人が循環するような循環型社会を行政が作るのなかなか難しいだろうし、そこにいい意味でNPOが地域に入っていければいいですね。

紅邑:虐待されているかもっていう所にもっと市民が入っていければいいのにと「キャプネットみやぎ」の方が仰っていたんだけど、なかなか介入しづらいついて。でもこのごろ制度が変わったじゃないですか。それはもう少し市民が関わればというところですか?

志水:どうでしょうね。制度が変わるっていうのと、住民の意識っていうのはちょっと別かもしれない。おせっかいなおばちゃんになれるかどうかっていうのがけっこう大事だったりするんです



ゲスト 齋藤 純子さん
特定非営利活動法人 せんだい杜の子ども劇場 代表理事
特定非営利活動法人 水環境ネット東北 理事

よね。自分の町で暮らしているっていう意識があれば、あんまり泣き声がひどいと心配とか、お母さん大丈夫かな、とかね。そんな積み重ねで市民の意識が変わる可能性はあるけれども…。そういう状況を虐待ってほかの人から言われると、当事者はますます閉じちゃう。だからそうじゃなくて、うちの団体はみんなに混ぜてもらって、みんなで助けていこうよっていう。

齋藤:その大変さをみんなで受け入れるっていうか。
志水:やっぱり市民の力だと思うんですよね。「私もそうよ」「私もそう」って助け合っていく…。

齋藤:子どもにいろんな意味で目が向けられてきたのは、ようやくここ4、5年。ずいぶん具体的な施策もできてきたけれど、まだまだなのよ。

紅邑:ある意味そういう制度ができる以前からNPOなんかは動いているわけだけれど、制度ができればさらに活動しやすくなるっていうことはあるのかもしれないね。

齋藤:でも悪いけど施策を作っているのは座って物ごとを考えている人たちだから。

■女性の働く環境と子育てについて

小川:少子化の問題と、子どもは産みたくないっていうのはどんな関係なのでしょう。

齋藤:それはいろいろあるんじゃない。
志水:生き方の問題っていうのもあるし、育てにくいっていうのとか、経済的な問題とか家事を夫が手伝わないとか…。

齋藤:今の労働環境が昔とぜんぜん違うと思う。女性が働く機会や場所も自分の若いころと比較して、今は女性が働くって当たり前になっているわけですよ。昔はそうじゃない。「さっさとお嫁にいきなさい!」って時代なの。結婚したら子ども産んで、ちゃんと育てなさいっていうのがまだまだすごく残っていた。専業主婦当たり前。今はそうじゃないよね。

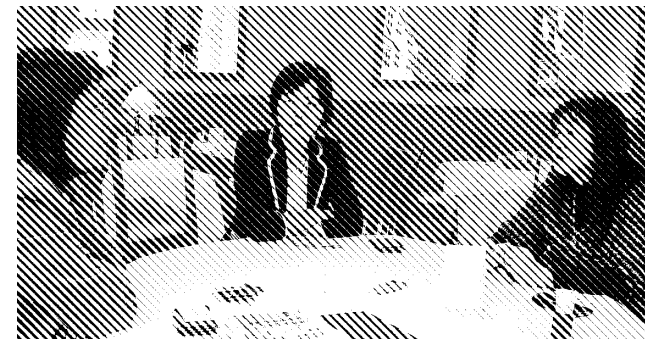
紅邑:いまは働かざるを得ないって働いている人もいるじゃない。仕事も結婚もできたら両立させたいっていうのが普通になってきている。でも一方では企業側がそれに対応し切れていないじゃないですか。

志水:保育園に預けても熱があるから迎えにきてくださいとかで預けられないし、病弱な子の母親は、仕事辞めて子どもを見なきゃいけない。

紅邑:この間「CSR大賞」というのがあって、そこで大賞を取った企業というのが、大きい企業じゃないんだけど、会社に子ども連れてきて、会社のなかで子どもの面倒を見られるっていう会社…。

齋藤:あつ、それすごくいい!
紅邑:やっぱり働きやすい環境を提供している企業に勤めたいなるわけですよね。

齋藤:子どもの生活サイクルに合わせられるように働ければいいけれど、まだまだそうはなっていない。労働時間とか…。そうすると、子どもも夜型になってくる。すると家庭のなかに疲れが溜まって…。私たちはいま児童館の指定管理をしているけれど、大人の社会的変化に子どもがどうしてもついていかなければならないですね。高齢者もそうだけど、まず子どもがいて、それに周りが軌道修正していくという発想ってダメなのかしらって思ったりする。見ていて心配な面よ。



■私もあなたも、みんなで補い合う社会へ

小川:この間、新聞記事にあったんですが、企業が躍起になって女性を活用しようって言って久しいけれど、いまだに女性をどう扱っていいかわからない。たとえば時短で早く帰りますとなると、周りの女性たちから「しわ寄せが来る」ってブーイング。そういうのがまた問題になっている。上層部はそんな現場の様子を知らないから、ただ「売上を上げろ」としか言わない、時短の制度はあるけど、結局は問題が起こるから使えないという雰囲気が出てきちゃって…。

志水:あるんですよね、女性が女性を攻撃するっていう…。だから誰かのためにみんなが融通するっていうんじゃない、私にとっても働きやすい職場、みんなが融通し合ってみんなが働きやすい会社っていうキーワードじゃないと、女性が働きやすいとか、介護している人が働きやすいというバランスが崩れると思うんですよ。なんでもそうだと思いますが、私が働きやすいっていうのを実感としてないと、独身だし、介護している人もいないから、あなたの残業、私がするの?って。

齋藤:そういう見方になってくるとつらいよね。みんなで補完し合うということにならないとね。

志水:だから、私が旅行するときはあなたに都合つけてもらおうし、あなたが休む時には私がそれを補う。これからは「みんなが働きやすい」っていうキーワードをもとにして考えていかないと。なにかに特化していくとダメですよ。

齋藤:育児中の女性とか、介護している人とか…。
志水:そうです。「独身だから、私だけなんのメリットもないわ」なんて、そうじゃないですよね、世のなかって…。

齋藤:さっきも話に出たけど、制度ができたって、心のバリアフリーじゃないけど、人の温もりがなければ、ね。

志水:だから、だれかのためにというのはもう時代遅れなんじゃないかって思うんです。そうではなくて、たとえば仙台がみんなに暮らしやすい街にするにはどうするのかって時に、いちばん弱い人…、たとえば道路でも歩きにくいって感じている人が歩きやすくと、われわれも歩きやすいよねとか。そうになったら、じゃあ税金、もつと払っちゃうとか。

齋藤:そうよね。私にとってもいいんだってなるといいよね。そうするといろんなことが動き出すような気がする。

紅邑:私は、企業がそういう社会的な弱者と呼ばれている人々ともっと出会う機会をつくるべきだと思うんです。もしくはそういう人を一緒に働いてこそ、そこから学べることって大きいと思います。たとえば子どものことで商売している人たちなら、齋藤さんの活動から学ぶこともあるだろうし、もっと企業が理解し合えることがある。企業もNPOももっと双方分かり合う努力が必要なのよね。

このほか、地域の草の根NPO、アメリカと日本のNPOの違い、企業とNPOの関係などなど、話のネタはいつまでも尽きず、アツという間に時が過ぎていきました。お店の方から「もうお時間なので…」と言われてやっタイムアウト。第2回の「らんち de MATCH」も楽しみですね。どんな話が飛び出すやら、乞うご期待!(記録・編集:小川真美)

ホスト: 紅邑 晶子(せんだい・みやぎNPOセンター常務理事・事務局長)
小川 真美(せんだい・みやぎNPOセンター大町事務局スタッフ)



ゲスト 志水 田鶴子さん
子ども虐待防止ネットワーク・みやぎ(キャプネット・みやぎ)運営委員

せんだいCARES 2008 つながることがまちのチカラになる

せんだいCARESとは、さまざまな分野で活動するNPO・市民活動団体の活動により多くの市民や企業、学生、行政が参加することで、仙台地域のいろいろな問題を解決し、たくさんの人の手で仙台をCARE(お世話)しよう!!というキャンペーンです。6年目の今年は「つながることがまちのチカラになる」をテーマにキャンペーンを展開し、参加NPOが31団体、協賛企業は42社になりました。

■ 今年のせんだいCARES

NPOのイベント情報や活動情報などをまとめたパンフレットを制作して、市内各所に配布していますが、今年はより幅広い年代の方にご覧いただきたいと思い、雑誌風にインタビュー記事なども掲載し、お洒落なカフェにも置いていただけるような工夫をしました。運営資金は、おもに企業からの協賛金ですが、自分たちも調達するために、昨年に引き続き「七夕チャリティー写真代行サービス」を実施しました。これは七夕の期間中に観光でいらっしやった方々のカメラで写真を撮って差し上げるという企画。スタッフ総出で取り組み、3日間で約15万円の資金を集めることができました。

■ せんだいCARES自主企画イベント 「NPOスマイルウィーク」

11月11日(火)～16日(日)には電力ビル1FのアクアホールでNPOの活動と企業CSR活動をご紹介します「NPOスマイルウィーク」を開催しました。ステージでは『環境』にまつわる日替わりのテーマを設けて、団体や企業に取り組みを発表していただき、盛りだくさんな内容となりました。展示のほうも22団体が参加し、NPOの活動を一度に見ることができるとなり、約3400名の方々が来場しました。今年参加された団体からは、イベントの来場者数が増えたとのうれしい報告もありました。(田内亜紀子)



環境NGOの活動発展のための組織運営講座 あなたの団体がパワフルに 大変身します

10月18日(土)、19日(日)の2日間、ハーネル仙台を会場に環境NGOの活動発展のための組織運営講座が開催されました。(独)環境再生保全機構地球環境基金の主催で、当センターが委託を受け、企画・実施を行ったもので、講師は加藤哲夫代表理事。ワークショップを中心に、講義や事例紹介を行いました。

■ 事業開発と組織開発

まず、スライドでの図解付きで、組織の要素や社会的課題、市民活動の成長の方向などについて講義がありました。社会の課題に取り組むとき、初めに課題の分析・顧客とニーズの特定が必要であり、それから課題解決のしくみとしかけの開発をしていきます。この部分が事業開発となります。しくみとしかけを作ったら、それを組織の日常業務に落とし込み、組織としてマネジメントしていくようになります。これが組織開発にあたります。事業開発と組織開発のイメージを最初に持つことで、組織の課題を分析しやすくなりました。

■ 多数のボランティアを生かした活動の事例

ゲストで事例紹介をしていただいたのは(特活)登別自然活動支援組織モモンガくらぶ事務局長の吉元美穂さん。モモンガくらぶは登別市の自然体験施設「ふおれすと鉱山」の指定管理者で、その施設をフィールドに多数の事業を活発に展開しています。

150人ものボランティアスタッフが活躍するモモンガくらぶの運営体制や、人材育成のしくみなどについて紹介していただきました。

■ 課題の明確化と課題解決のアイデアづくり

ワークショップでは、それぞれの参加者が自分の組織の課題を洗い出して優先順位をつけ、取り組むべき課題を明らかにしました。その後、各自で課題解決のアイデアを作り、それに対してほかの参加者からコメントをもらって、最後はみんなでアイデアの大発表大会。

違った視点からの意見をたくさんもらったことで、参加者のみなさんも多くの気づきがあったようです。ぜひ今回考えたアイデアを実践の場で生かしていただければと思います。

(布田 剛)

サポート資源提供システム 物品提供

企業など支援者のみなさんから経営資源を提供いただいている「サポート資源提供システム」。11月21日(金)には「東京海上日動火災保険株式会社」様、11月28日(金)には「株式会社YSLソリューション東北」様からの物品提供があり、その内覧会がそれぞれお引越し前の旧オフィスにおいて行われました。

■ たて続け2社からの物品提供

1社目は「東京海上日動火災保険株式会社」様。なんと今回で5度目のご提供となりました。オフィス移転とのことで、1000点以上の物品が内覧会の会場に所狭しと展示され、その数の多さから内覧会と運び出しの日を別々に設けられました。そして、お引き渡し日の当日、14のNPO団体のみなさんが小雨にも負けず、うれしそうに運び出しをする姿が印象的でした。

続いて2社目は「株式会社YSLソリューション東北」様。告知からお引き渡しまで非常にタイトなスケジュールでしたが、「少しでも団体の役に立てば…」ということで、開催の運びとなりました。2社連続の物品提供だった為、参加は2団体でしたが、こちらも大雨が降るなか、「これが欲しかった!」とよこびながら、NPOのみなさんが運び出しに精を出していました。



■ サンキュー カードのご紹介

物品提供を受けたNPOから提供企業様に向けて「サンキューカード」を書いていただきました。ここでご紹介しましょう。

・交流サロンのオープン準備中で、欲しい物をたくさん提供していただき、感謝です!

・欲しかったのですが、高価で手が出ませんでした。でも、これで助かりました!

・NPOも企業も大小関係なく人々がつながりあってできている。こういうつながりが生まれたことに感謝。

■ Win _ Win _ Winのサポート資源提供システム

提供企業は地域に貢献できWin、NPOは物品により活動に弾みがつきWin、そして地域の人々がNPOからサポートを受けWin。三方みんなうれしい「Win _ Win _ Win」のこのシステム。今日もどこかで提供された物品たちが大活躍していることでしょう!(小川真美)

チョット

かじってみよう! CSR。 5

~3,000人の主婦も投票した、CANPAN 第2回CSRプラス大賞~

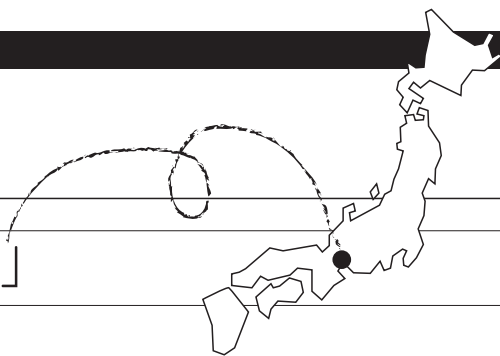
11月7日、第2回CSRプラス大賞と第3回ブログ大賞の授賞式に行ってきた。今回のCSRプラス大賞は20,000人の人が参加。そのうち、10,000人は会社員、2番目に多く参加したのは3,000人の主婦だった。企業の不祥事が今年も相次いだけれど、主婦の目はCSRといたところにも向いているようだ。

今回、見事大賞に選ばれたのは、創業14年という国産唯一の手づくりタイルメーカー「有限会社ワッツビジョン」。ものづくりは人づくり、人づくりはまちづくり、というキャッチフレーズのもと、子どもの笑顔があふれるまちづくりを目指して、子育てしながら働くことのできる優しい作業環境づくりに取り組んでいる。「完全フレックス制」「出来高報酬制」「子ども同伴出勤制度」といった仕組みがある。こんな会社をたぶん、3,000人の主婦は見逃さなかったのだと思う。会社員という中にも、女性社員もいるはずだ。男女雇用機会均等法ができて、職場の環境も社会環境も子育てをしながら仕事をしたい夫婦には、優しくないのが現状。そんななか、「子育てしながら働ける職場」なんて、夢のようだけれど、実現している会社があるというのがすごい。ほかにも女性が働きやすいということが今回の投票結果には反映されていたような気がする。

当センターでは、株式会社一ノ蔵を推薦した。20社中10位と健闘した結果となった。全国各地の1,000人以上の方から投票とメッセージが届いた。一ノ蔵さんに届いたメッセージだったけれど、やっぱり応援の声や評価してくれるメッセージは自分のことのようにうれしかった。

詳しくはこちらをご覧ください

http://blog.canpan.info/csaward_2008/category_6/



●全国の支援センターから

「未来のための自治体改革支援とNPO支援」

(特活)市民フォーラム21・NPOセンター 事務局長 藤岡喜美

市民フォーラム21・NPOセンターは、全国でも珍しい民設民営の施設を開設したことが特徴です。平成20年6月には、築40年の名古屋駅前ビルから、築12年の名古屋の北の玄関といわれる北区へ移転しました。

しかし、それ以上の特徴があります。自治体改革コンサルティングによって継続的な収入を確保しつつ、自治体に対し、P-D-C-Aの各段階における市民参加の仕組みづくりや、ルールの提案、NPOの力量拡大のための政策を促進させ事業と戦略とを一致させてきました。一方で、法人化支援・会計労務支援など定型的なNPO支援だけでなく、基軸事業をどのように確立させるかなど、NPOの経営に関する高度なNPOコンサルティングを開拓するという独自のビジネス・モデルを確立してきました。

NPOの数は増えたが、組織基盤がまだまだ脆弱であるといわれていますが、最近東北地方の複数の団体を訪問させていただきました。地域の特性を活かし、工夫と努力をしているNPOが確かに存在していることを実感しました。

これからも皆様と連携しつつ、すぐそこに見えている私たちの未来のために、自治体改革支援とNPO支援の二本柱にて活動を展開していきたいと思っています。

●理事リレーコラム

「NPOは新しい時代への黒船となれ」

針生 英一 (理事・ハリウコミュニケーションズ株式会社代表取締役)

事務局からこの10年の市民活動を振り返って、コラムを書いてくれという依頼が来た。私は市民活動の歴史について深く語ることはできないので、今回は企業経営者の目線で企業とNPOの関係性について触れてみたいと思う。

私にとっての市民活動は、ソーシャルマーケティングそのものである。ソーシャルマーケティングとは、企業が自社の利益だけでなく、社会全体の利益を考えた「社会公共志向のマーケティング」のことで、企業と顧客という閉じた関係性だけでなく、その中に社会や生活者という視点を加え、社会全体に対する有益な商品やサービスの提供を重視する。CSRをもっと戦略的に進め、本業のあり方にさえ大きく影響を与えるソーシャルマーケティング。企業にとっても、そういった価値観が次第に重視され始めている。

しかし、行政組織と同様、企業という組織においても長年慣れ親しんでいた価値観を簡単に打破できるものではない。特に「売上や利益こそが全て」と社員を鼓舞し、進軍ラッパを吹き鳴らしてきた経営者にとってはなおさらのことである。また、そういった社風の会社には社長に物申せるような幹部もいないのが常であろう。だから当然のごとく偽装も起こってくるのである。

どんな組織であっても内側から自律的に変えていくのは非常に難しい。組織の外から様々な刺激を上手に取り込むことで、組織は活性化する。刺激を取り込むことで組織は不安定になるが、敢えて意図的に組織は不安定にすべきものである。ソーシャルマーケティングやCSRを考えたとき、NPOは企業に対して刺激を与え続けられる、新しい時代に向けた黒船の役割を期待されているのだろう。

新スタッフ紹介

新スタッフより、自己紹介と抱負を語っていただきました。

伊藤 香(いとう かおる)

●出身地:山形県新庄市 ●特技・趣味:パーカッション(マリンバ)
高校時代までを出身地で過ごしました。かに座のO型。豪雪地帯で育ったせいか、寒さにはめっぽう強く、滅多に風邪はひきません。〇〇は風邪をひかないけれど、それかも!! 性格は明るいほうで、コミカルな部分も時々顔を出します。ポケ防止も兼ねて、4年前よりプロの先生からマリンバのレッスンを受け始めています。(仙台SC)

菅野 祥子(かんの さちこ)

●出身地:宮城県(仙南) ●特技・趣味:音楽鑑賞・絵(イラスト)を描くこと
学生の頃は芝居をやっていた、おもに音響担当でした。結婚披露宴の音響スタッフとして働いていたこともあります。そのせいか、日常生活のなかでも「この場面はこのBGM」と考えてしまうクセがあります。また、中学・高校時代は柔道部に所属していたという、猛々しい?一面もあります。どうぞよろしくお願ひします(仙台SC)。

■活動ダイアリー

当センターでは7月よりスタッフがNPOの現場に行き、実際の活動を体験する研修を行っています。今回は、「(特活)仙台夜まわりグループ」さんにおける高橋陽佑さんの研修風景をお伝えいたします。

(特活)仙台夜まわりグループ

路上生活者に対する生活支援や自律支援を行っている団体。活動内容は、食料・衣類の提供や定期的な夜回りのほか、自律に向けての各種相談、居宅の提供、就労支援事業など幅広い。定期的に発行されるニュースレター「夜まわり報告」で詳しい活動内容を発信。
http://www.yomawari.net

■8月1日(晴)研修初日。当日の夜に行われる福祉プラザでの食事会の準備を始める。ボランティアスタッフが手分けして、食材の準備や配布衣料の整理。けっこう忙しい。15時頃に準備した物をトラックに積み込んで福祉プラザへ出発。調理室での食事づくりは、高校生や大学生のボランティアさんも参加。一緒に野菜を洗ったり肉を切ったり…。男子校時代に男だけで作った調理実習以来の体験で、なにやら懐かしく、新鮮な気持ちになった。18時からは、いよいよ食事会。市内の路上生活者の方が60人以上集まっていた。話には聞いていたが、実際にまのあたりにすると人数の多さに驚いた。

■8月23日(曇り)今日は五橋公園での炊き出しの日。10時に事務所へ行くと、すでに配布衣料や食事の用意ができあがっていた。あとはトラックに積んで運ぶだけ。公園へ着くとすぐにカレーと衣料の配布場所をつくる。自分は衣料の配布係になった。希望する物を欲しい分だけお渡しできる状況ではないので、上着は1着とか、靴またはバッグ、どちらかなどの制限を設けるが、できるだけ要望にあった物を渡せるよう、希望を聞きながら、まるでショップの店員さんみたいに品物をアピールした。

■9月3日(雨)初めての夜回り。仙台駅西口に集合。2グループに分かれて市内各所を車で移動しながら、路上生活者がいる場所へ。食べ物を配給しながら、現在の状況を聞く。今日は雨が降っているので、みんな寒そうだ。でも食べものを渡したとき「ありがとう」と言ってくれるその声は温かい。

■10月24日(雨)雨のなか、濡れないように事務所の駐車場にテントを張ってカレーをつくる。その量なんと100食以上! 業務用大鍋2つでコトコト煮込む。明日は五橋公園での炊き出し。そうか! 前日にすべて準備してしまうんだ。翌日のボランティアさんが、すぐに炊き出しや衣料配布ができるように、頑張って準備しよう。(高橋陽佑)

近藤 浩平(こんどう こうへい)

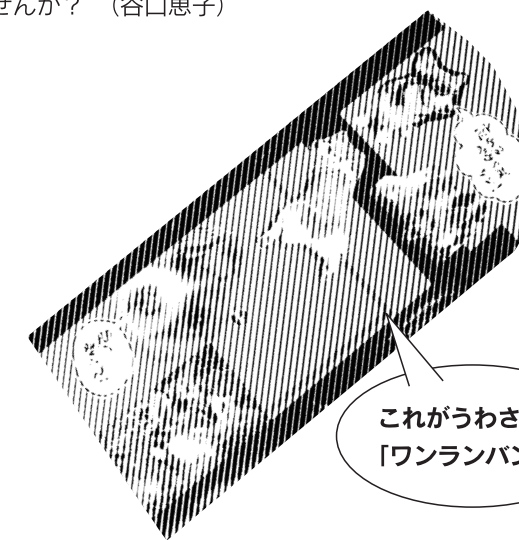
●出身地:北海道苫小牧市 ●特技・趣味:絵を描くこと
私は山形の東北芸術工科大学で油絵を学び、その後も作家として制作や発表を行っています。街には文化的方面から盛り上げていこうとする個人や団体が活動している中、市民や街へ浸透させていくのはなかなか容易なことではありません。それらの点に在っている活動を線に繋げ、新たなムーブメントを切り拓いていきたいです。(多賀城SC)

大町2丁目劇場コラム

vol.1

『ワンランバン』登場!

とある日のせんだい・みやぎNPOセンター大町事務局で、相次ぐ回覧物の行方不明事件! 「いったい誰が…。不穏な空気が漂う大町ミーティング。と、加藤代表理事から「どこにあるのか、ひと目でわかる大きな回覧板をつくればいいんじゃないの?」という解決案が出され、代表理事自ら、はさみをチヨキチヨキ…。スタッフ歴1年目の自分は、そんな“理事”の姿に驚きを覚えながら(ま、まるで幼稚園児のよう…)、待つこと10分…。格闘の末、「ほれっ」と渡された回覧版は、縦55センチ、横25センチの段ボールをベースに写真から切り抜いたウェルシュ・コーギー犬が何匹もコラージュされた超大作! その名も、回覧板ならぬ「ワン(!?)ランバン」なのでした。ご覧のとおり、ワンコのつぶらな瞳がじつ〜とこちらを見つめ、「ちゃんともわしましょうネ」「忘れるべからずワン!」「早くまわして!」という吹き出しのセリフが…。「おっと、忘れちゃいけないね」なんて、思わずひとりごとが出たりして…。本日も目の前には、「ワンランバン」。そのプレッシャー、いえ、その愛らしさから、大町事務局スタッフたちも滞ることなくせっせと回し、一件落着! そんなご自慢の「ワンランバン」ですが、自称“猫ストーカー”の自分としては、虎視眈々と「ニャンランバン」も狙っているところ。どなたか作って下さいませんか? (谷口恵子)



これがうわさの「ワンランバン」だ!

堀籠 眞希(ほりごめ まき)

●出身地:宮城県仙台市 ●特技・趣味:お菓子づくり・宝塚歌劇観劇
宝塚歌劇は20年の観劇歴です。得意なお菓子は炊飯器で作れる「カステラ風卵ケーキ」です。この度は縁がありまして多賀城市市民活動サポートセンターにお世話になることになりました。「清く正しく美しく」+明るく笑顔で頑張りたいと思います。宜しくお願ひ致します。